

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(270)

WSF開催

2024年11月20日から23日にかけて「世界科学フォーラム」(World Science Forum, WSF)がハンガリー・ブダペストで開催された。1999年の「世界科学会議」を前身とし、03年以降隔年で開催されているWSFは、科学と社会の関係を考える世界規模のフォーラムである。

し、地球規模の危機への対応や地域課題の解決における科学の役割が議論された。今回はテーマを「地球規模の変革期における科学と政策のインターフェース」とし、気候変動、格差の拡大、革新的技術の急速な進化など、現代社会が直面している課題について、国際的な視点から議論が行われた。

面する課題の解決に必要となる「科学と政策の連携」を妨げる要因が議論された。

今後の課題

「科学への信頼」 フォーラム最終日に採択された「WSF2024宣言」では、科学と政策の連携の重要性があらためて確認された。科学の信頼回復の力ぎで、ジェンダーや人種による差別、ソーシャリズム上での誹謗中傷から研究者の自由や安全性を守る必要性も示された。

さらに、研究開発投資の大部分が先進国に偏っている状況は、正や、紛争地域における科学者の安全確保や研究インフラの再建も課題に挙げられ、これを解決する上で外交を通じた科学技術分野の協力がより一層重要になると指摘された。また、科学教育の強化を通じて社会の中にクリティカルシンキング(批判的思考法)を

に育むことや、科学ジャーナリズムを保護し科学の可能性と限界を効果的に社会に伝えることも課題に挙げられた。今後世界で、この宣言を基に具体的な取り組みをさらに進めることが期待される。

科学と政策の連携再確認



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(STI基盤ユニット) 加納 寛之

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。20年5月より現職。科学技術・イノベーション政策についての調査業務に従事。

第11回世界科学フォーラム宣言 「地球規模の変革期における科学と政策のインターフェース」(抜粋)

科学的助言システムの強化

知識生産と学問の自由の保障

紛争時の科学者の保護

科学教育の強化

信頼できる知識と実用的なソリューションの提供

若手研究者の対話促進

国際協力と科学外交の促進

新興技術への倫理基準の適用

国際組織や利害関係者との継続的な対話

ユネスコ「持続可能な開発のための科学の国際10年計画」への参加

「Declaration of the 11th World Science Forum」を基にCRDSで作成
<https://worldscienceforum.org/contents/draft-declaration-of-the-11th-world-science-forum-110170>

(金曜日に掲載)